



**KMU** 金沢医科大学氷見市民病院

| 広 | 報 | 誌 |

# かけはし

氷見

KAKEHASHI



患者さんと病院と  
地域をつなぐ広報誌

KANAZAWA MEDICAL UNIVERSITY  
HIMI MUNICIPAL HOSPITAL



TOPICS ● トピックス

## 新年のご挨拶

池に浮かぶ白鳥(氷見市十三町瀧水郷公園)

CONTENTS ● もくじ

TOPICS	新年のご挨拶	P.01
特集	地域医療懇談会	P.02
	清水先生の診察室から	P.03
	診療コラム	P.04
	病院★ニュース	P.05
	病院からのお知らせ掲示板	P.06
	まちかど情報	P.07

病院の理念

私たちは「生命の畏敬」を医療活動の原点として  
次のような病院を目指します。

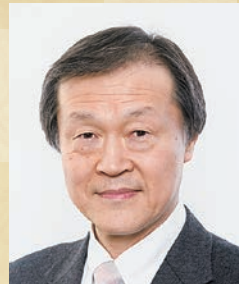
- 医療人としての研鑽に励み、患者さん中心の医療を実践します。
- 住民の健康と生命を守る中核病院として、安全で質の高い医療を提供します。
- 地域の医療機関と協力し、地域の医療福祉の向上に貢献します。
- 将来の地域医療の担い手となる有能な医療人を育成します。







# 新年のご挨拶



最高経営責任者 (CEO)

神田 享勉

れあい医療フェスティバル、市民公開講座をはじめ、近隣の医療機関との地域医療懇談会も予定したいと考えており、ここ数年にわたるコロナ禍により狭く硬くなった心身をほぐし、このたびの地震から一歩前に進みたいと思っています。

2 024年の新年を地震とともに迎えることになりました。

避難所生活をされた方も多かったと思います。真冬で寒さの厳しい中、ご家族との移動や慣れない場所での宿泊、密な環境下でコロナ感染への不安など、災害が多重になってきたこととお察しいたします。このたびの地震からの復興には、まだまだ時間がかかるものと思います。

本年はどうか予測できませんが、明るいニュースもあるはずですので、まずは北陸新幹線が福井・敦賀まで延伸し、いよいよ日本の東西を結ぶこととなります。また、当院では、状況が落ち着いてからにはなりますが、イベントなど交流の場をできるだけ多く提供するつもりであります。例えば、夏休み親子ふ

また、2024年問題として、働き方改革が挙げられていますが、時間外労働の短縮により、運送業だけでなく医師の働き方改革も含まれていることから、今後は、外来や入院においても主治医だけの管理ではなく、複数の医師による集団管理体制で患者さんの診療にあたることや、夜間の診療体制においては、専門医による診療が難しい場合が出てくる可能性もあります。今後も住民の皆様のために尽力するつもりですので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

今年も辰年です。今までふさいでいた気持ちと身体を解放し、辰のように上昇できることを期待しています。皆さん、どうぞよろしくお申し込み申し上げます。



病院長

伊藤 透

令和6年1月1日午後4時10分、能登半島地震1・1が発生し、輪島、珠洲、穴水地区を中心として津波、地震、それに伴う火災など甚大な被害が出ており、時間と共に亡くなった方の数が増え心を痛めております。お亡くなりになった方々へ哀悼の意を表するとともに、被災された方やそのご家族、関係の方々へ衷心よりお見舞い申し上げます。

地震の影響は石川県、新潟県、富山県内では特に氷見市に大きな被害があり、当院も正面入り口や救急外来入り口でみられた液状化現象による段差や、階段等では壁の崩落、強い揺れによる機器や物品の飛散はあったものの重大な状況とならず、1月4日から通常診療を開始いたしました。病院では、電気、ガス、石油、水のインフラが一つでも欠けると、診療に重大な影響が及び継続が困難となります。水以外のインフラは確保されていましたが、断水は、1月5日の午後4時まで続きました。水の使用量は、通常1日120ト

ンが必要ですが、使用量を最小限に節約した場合も40トンが必要でした。この間、氷見市を通じた災害派遣依頼により、富山県立山町、神奈川県川崎市、静岡県島田市から給水支援を頂き、難局を打開することが出来ました。また多くの事業所から飲料水、簡易トイレなどの寄贈を賜りました。心より感謝申し上げます。

また、地震当日の1月1日から、医師をはじめとする職員が出勤し、氷見市民の皆様の健康をお守りする観点から、災害対策本部を立ち上げ、危機管理対策の対応に職員全員が、全力を挙げて尽力いたしました。また氷見市内の開業医の先生方の診療所でも断水で診療が行えず、当院の救急外来に多くの患者さんが来院され、医師、看護師をはじめとする職員が一致団結して対応にあたりました。

病院長として今回の地震を経験し、職員の倫理的かつ能動的な行動力に感服するとともに、公設民営の管理体制で15年を迎えた当病院において、今後、医師の働き方改革、金沢医科大学の令和6年重点事業とする財政健全化に向けた対応、経費節減など当院の未来へ向けての取るべき施策を乗り越えていけると確信いたしました。氷見市民病院は医師会の先生方と協働してこの難事を乗り越えていきたいと存じます。





金沢医科大学氷見市民病院  
第15回  
地域医療  
懇談会

令和5年10月28日(土)午後6時から、ホテルニューオータニ高岡にて第15回金沢医科大学氷見市民病院地域医療懇談会を開催しました。近年は新型コロナウイルスの流行により

懇談会のみで開催としておりましたが、今年は3年ぶりに懇親会を含めた2部形式で執り行う事が出来ました。

今回は、氷見市や高岡市の開業医の先生方24名にご出席いただきました。また、学校法人金沢医科大学から高島茂樹理事長、当院から神田享勉最高経営責任者、伊藤透病院長をはじめ、診療科長など34名が出席しました。

懇談会では、神田最高経営責任者から開会挨拶があり、続いて伊藤病院長から、この一年間の当院の実績報告と、役職者、新たに着任した医師の紹介がありました。

次に、井口副院長を座長に「診療紹介」が行われ、最新の治療法や治療の実際として事例が紹介されました。

診療紹介1は、泌尿器科教授森山副院長から「前立腺肥大症に対するMIST Minimally Invasive Surgical



Technology」と題して講演が行われ、新たな前立腺肥大症の低侵襲治療として、経尿道的前立腺吊上術の方法が紹介され、早期の症状緩和と回復が期待されると説明されました。

診療紹介2は、腎臓内科助教原口医師から「CKD慢性腎臓病と地域連携について」と題して、CKDの治療について、専門医へ紹介する参考値や早期の治療介入の重要性について説明されました。

懇親会は、高島理事長の挨拶から始まり、氷見市医師会松井みづほ会長のご発声で乾杯が行われました。その後は終始和やかに歓談がなされ、出席された方々の親睦がより一層深まりました。

最後に、福田副院長の閉会挨拶により盛会のうちに終了しました。



今後も氷見市の中核病院として近隣の医療機関や施設の皆様との連携を深めながら、地域医療に貢献していきたいと思えます。



しみず

清水先生の  
診察室から

整形外科講師

清水  
SHIMIZU  
YOSHIAKI  
義朗

## 令

和3年7月に、金沢医科大学から氷見市民病院へ赴任してまいりました整形外科の清水義朗です。

富山県における氷見の立地と、当院が氷見市で唯一の中核病院ということを考えて、氷見市内の患者さんは、可能な限り当院で診療を完結できればという想いがあり、専門は脊椎外科ですが、脊椎疾患のみを診るのではなく、外傷や関節など、整形外科領域全般の診療にあたっています。また、リハビリテーション科長としての業務など新たな経験もでき、他科の先生や医療技術職の方とのコミュニケーションも取りやすく、環境、業務内容ともに充実していることを日々喜ばしく感じています。

現在は、整形外科という領域の仕事にやりがいを感じておりますが、学生時代は軽音楽部でバンド活動に明け暮れ室内にこもっており、運動で怪我をすることもなく、整形外科とは無縁の

生活を送っていました。初期研修時代も、心臓や腎臓、麻酔、小児科の領域に興味があり、未来の自分が整形外科医になることなど、まったく想像しておりませんでした。

仲の良い先輩がいたからと整形外科で2カ月間研修した際に、骨折や神経障害の患者さんに対し、多岐にわたる医療技術職のスタッフたちと協力して治療やリハビリを行い、歩けず動けなかった患者さんが笑顔で歩いて自宅へ退院していく姿を見送る先輩から、「患者さんの笑顔が仕事のやりがいだ」という言葉を聞き、なるほどと感銘を受けたことがきっかけとなり、気が付けば整形外科の門をくぐっておりました。初心忘るべからずで、これからも一人でも多く患者さんの笑顔を作れるよう尽力したいと思っております。さて、氷見といえば鯛のイメージをもっておりますが、せっかく氷見で働いているのであれば、プライベートで

は、鯛のシーズンは、メスを包丁に持ち替えて、いつかは鯛1本を丸々捌いてみたいかと、日々画策しながら業務にあたっていたりします。

今後も、氷見市の地域医療に貢献できるよう日々精進してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



愛用のマイ包丁(出刃、柳刃)

### 清水 義朗 ★ 略歴

#### 【学歴・職歴】

- 2008年 金沢医科大学医学部 卒業
- 2010年 金沢医科大学整形外科学 医員
- 2011年 公立学校共済組合北陸中央病院整形外科 医員
- 2015年 金沢医科大学整形外科学 助教
- 2015年 公立穴水総合病院 整形外科
- 2016年 恵寿金沢病院 整形外科
- 2021年 金沢医科大学氷見市民病院整形外科 助教
- 2022年 金沢医科大学氷見市民病院整形外科 講師  
金沢医科大学氷見市民病院リハビリテーション科 科長

#### 【資格等】

- 医学博士
- 日本整形外科学会専門医
- 日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
- 脊椎脊髄外科指導医
- 脊椎脊髄外科専門医





# 診療コラム

## 前立腺肥大症の新たな治療法 —低侵襲と効果を両立した新治療で排尿障害を改善—

泌尿器科 科長 森山 もりやま まなぶ 学 教授

前立腺肥大症は、中高年男性によくみられる疾患であり、その治療法について日々進化が続いています。最新の治療法の中でも、低侵襲でありながら効果的な治療が注目されています。

当院では、患者さんのQOL（生活の質）向上を重視し、各科で新たな治療法を積極的に導入しています。泌尿器科領域でも、前立腺肥大症に対する低侵襲な治療法が注目を集めています。これにより、手術や入院の負担を大幅に軽減し、治療後の回復が迅速に行えるようになります。

当科で新たに導入した2種類の前立腺肥大症の外科的治療は、新たに開発された特殊な機器を使って前立腺の一部を摘出することなく、内視鏡を介して治療を行います。患者さんの状況により選択される治療法が異なるものの、どちらの治療法も手術

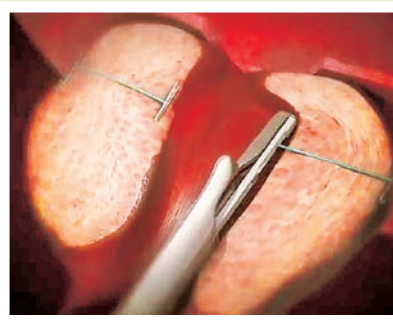
時のダメージが少なく、入院期間も短縮されるため、患者さんが早く日常生活に復帰できるという共通した利点があります。また、新治療法は効果にも優れています。前立腺の適切な治療により排尿障害が改善され、患者さんの生活の質向上が期待できます。これにより、仕事や趣味、家庭生活など、患者さんの日常生活における制約が軽減され、より充実した生活が送れるようになります。

当院では、このような新しい治療法が導入されています。排尿障害が気になる方は、ご自身の症状や希望に合わせ、専門科（泌尿器科）への受診をお勧めします。低侵襲かつ効果的な治療法の選択は、患者さんの生活において大きな影響を与えることでしょう。

### 治療のご紹介

#### 経尿道的前立腺吊上術(PUL)

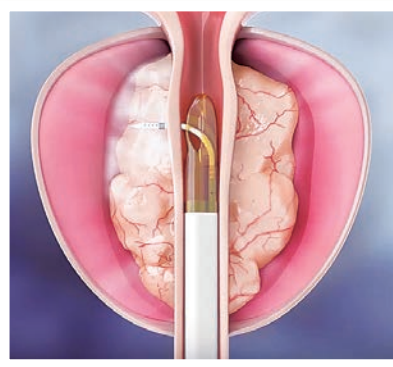
経尿道的前立腺吊上術は薬剤治療効果が不十分な患者さんに対する外科的治療の選択肢の一つとして低侵襲かつ前立腺組織の温存を可能とする新技術です。これまでの電気メスでの切開や、高いエネルギーにより熱変性を行う侵襲性の強い外科的治療に代わり、小さなインプラントを留置し、前立腺の両側を吊り上げて圧縮することにより、尿道を広げ、尿流を増やすという極めてシンプルな手技です。PULでは、前立腺組織の除去や損傷がないため、他の手技より性機能を温存できる可能性が高くなります。術後に尿意切迫、排尿痛、骨盤の不快感が出現することもあります。軽度から中等度の一過性のことが殆どです。



経尿道的前立腺吊上術(PUL)

#### 経尿道的水蒸気治療(WAVE)

経尿道的水蒸気治療とは、水蒸気を用いて前立腺肥大症を治療します。低侵襲かつ異物を体内に残さずに治療することがこの技術の特徴です。麻酔下に103℃の水蒸気を約9秒間噴霧し、前立腺組織を約70℃まで上昇させ組織を壊死する治療を行います。既存の前立腺肥大症に対する温熱療法と比べ、水蒸気を利用しているため対流によってムラのない治療効果が実現され、尿道粘膜や性機能を温存を可能としました。治療時間は15分程度で、治療効果は、おおよそ2週間程度、長くても3カ月後には排尿状態の改善が期待できます。



経尿道的水蒸気治療(WAVE)



## 令和6年能登半島地震における ご支援へのお礼

1月1日に発生した令和6年能登半島地震においては、氷見市全域で断水となり、当院への水の供給も停止しました。被災翌日から、立山町をはじめ神奈川県川崎市、静岡県島田市からの給水車の応援により、現地でピストン輸送で給水支援をいただき、透析や治療用水を確保することができました。誠に有難うございます。

1月5日に当院の上水道が復旧しましたが、給水支援のおかげでその間に診療に対する影響が最小限に抑えられました。

そのほか、多くの企業や医療機関等から、飲料水や食料等のご支援をいただき、被災した職員へ支給いたしました。また、富山県からも、支援物資として避難された市民の皆様に対し毛布の支給を受けております。関係される多くの方々に、職員一同心より御礼申し上げます。



川崎市による給水

## 第13回 広げようブルーサークルin ひみ 健康講座

日程：令和5年11月18日(土)

11月14日の世界糖尿病デーに合わせて、平成25年から氷見市医師会、氷見市健康課と当院糖尿病委員会が共同で開催し、約120名の方にご参加いただきました。

健康講座では、氷見市

健康課より、生活習慣病予防の啓発活動や市民へ実施したアンケートの結果などが紹介され、当院看護部の岡浦祥太郎看護師からは、糖尿病性足病変の種類や主な症状、予防方法について説明しました。その後は、当院リハビリテーション部の中嶋和理理学療法士、小林拓矢理学療法士によるリハビリ体操でリフレッシュ休憩をしました。

特別講演では、医療法人社団正名会池田病院理事長池田弘毅先生(兵庫県尼崎市)を講師にお招きし、「無理なく続ける最新の食事・運動療法」と題し、ご講演をいただきました。糖尿病食は健康な人にも食べてもらいたい健康食であり、ウォーキングなどの有酸素運動を中心に無理なく運動を続けることが重要であると説明されました。

今後市民の方が興味を持ち、糖尿病における理解を深めていただける健康講座を開催していきたいと考えております。



## 令和5年度 腎不全患者・家族研修会

日程：令和5年10月29日(日)

令和2年以降、新型コロナウイルスの感染拡大により中止となっていました。5類感染症への移行に伴い、世の中の考えや行動に変化が生じたことにより開催することができました。

開催にあたり、広報誌等で周知を行い、当院の透析患者さんや他院で治療を受けている患者さんおよびご家族の応募もあり、35名の参加がありました。今年度から血液浄化センター長を勤める原口医師、腎臓内科加賀谷医師から「ドライウایتとリンについて」と題し講義が行われ、適正体重を決めるための要素とその意味合いについて分かりやすく解説されました。また、リハビリテーション部の守理学療法士と野田理学療法士からは「透析患者の運動療法」について、実践を交えながら講義が行われ、自分の筋力がどれくらいあるか興味を持っている患者さんに対して測定も行いました。栄養部の若林管理栄養士と松波管理栄養士からは、栄養補助食品などの紹介と簡単クッキングが行われ、参加者からは「豚肉の柳川風は減塩のわりに味がしっかりしている」と好評でした。血液浄化センター長井看護師長からは、災害時の対応について説明がありました。研修会を真剣に聞く姿や、研修で学んだ内容をさっそくスマートフォンで検索する参加者の方もおり、非常に充実した研修会となりました。





# 管理栄養士のヘルシーレシピ

## 豆乳味噌スープ



1人分の栄養量(鮭を使用した場合)  
エネルギー97kcal たんぱく質 10g 塩分 1.3g

発酵食品の味噌、魚のオメガ3脂肪酸、野菜をバランスよく摂取できるレシピをご紹介します。野菜ときのこは、好みの食材に変更しても◎です。

### 〈作り方〉

- ①お鍋でだし汁を煮立て、具材を入れる。
- ②具に火が通ったら、一旦火を止めて、味噌を溶き入れる。
- ③豆乳を加えて、煮立たせないように温めて、完成です。

### 〈材料〉 2人分

鮭or好みの白身魚	40g	ぶなしめじ	40g
白菜	80g	豆乳(無調整)	150ml
ほうれん草(冷凍)	40	だし汁	150ml
にんじん	40g	味噌	18g(大さじ1)

塩分制限の必要な方は、具をたくさん入れる、汁を少なく盛り付ける等の工夫をしましょう。

## 病院からのお知らせ掲示板

### 令和5年度第2回市民公開講座のご案内

氷見きときと健康ポイント対象

当院の医師と医療スタッフが、病気や医療についてわかりやすくお話しし、患者さんや市民の方の健康増進に役立てていただくことを目的に開催します。ぜひご参加ください。

日時 令和6年2月17日(土)

13時30分～16時(12時45分受付開始)

会場 氷見市芸術文化館 ホール

定員 250名

会費 無料

備考 氷見きときと健康ポイント対象事業です。ポイントカードをご持参ください。

申込方法 メール・郵送

※氏名、年齢、住所、電話番号を記載の上、左記までご送付ください。

(郵送) 〒935-1853-1

富山県氷見市鞍川1130番地

金沢医科大学氷見市民病院 総務課 宛

(メール) [kh-soumu@kanazawa-med.ac.jp](mailto:kh-soumu@kanazawa-med.ac.jp)

申込み切 令和6年2月13日(火)

メインテーマ 健康長寿を目指そう!

～自分の足で出かけるために～

座長 副院長・泌尿器科 教授 森山 学

講演① 演題「ロコモティブシンドロームって知っていますか?」

講師 整形外科 講師 清水 義朗

講演② 演題「今日からできるロコモ予防」

講師 リハビリテーション部 主任理学療法士 浜池 孝徳

問合せ 金沢医科大学氷見市民病院 総務課

☎ 74-11900 (内線2022) 2024

### 冬季の駐車場利用について ～病院からのごお願い～

冬期間中は、積雪や凍結が起り、当院でも毎年、駐車場や構内道路での転倒や事故が非常に多く発生しています。

病院の敷地内については、職員による除雪作業を行い、患者さんへの危険が少なくなるよう努力しておりますが、来院の際は十分ご注意ください。

#### 歩行者の方

滑りにくい靴の着用や、足元を意識してゆっくり歩くなど、転倒には十分注意の上、時間に余裕をもって来院ください。

#### 車で来院される方

天候による視界不良や、路面凍結によるスリップの恐れがあるため、駐車場や構内道路では最徐行の徹底をお願いします。

また、積雪により十分な駐車スペースが確保できない場合もございますが、ご理解の程お願いいたします。

## 病院運営の基本方針

1. 患者さん中心の病院運営を行います。
2. 安全で信頼される医療の提供に最善を尽くします。
3. 患者さん・ご家族への「説明と同意」を徹底します。
4. 高度医療、質の高いチーム医療を推進します。
5. 地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進します。
6. 良医の育成と医療人の教育・研修を推進します。
7. 働き甲斐のある健全で活力ある病院づくりに努めます。

## 患者さんの権利

当院は医療の中心は患者さんであると認識し、患者さんには次のような権利があることを宣言します。

- 安全で良質な医療を公平に受けることができます。
- 病気や治療内容について、分かりやすい言葉で説明を受け、ご自分の希望や意見を述べるすることができます。
- ご自分の意思で治療方法や医療機関を選択することができます。
- 診療記録の開示を求めることができます。
- 他の医療機関に受診することを希望されるときは、必要な情報提供を受けることができます。
- プライバシーは尊重され、個人情報は厳重に保護されます。
- 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかどうかご自分の意思で決定できます。また、いつでも参加を取り消すことができます。
- 治療に関する自己決定の参考にしていただくため、セカンドオピニオンを受けることができます。

## 患者さんへのお願い

当院は、地域の中核病院としての社会的使命を果たすため、様々な医療を提供しています。患者さんには、次のことをご理解いただき適切な医療を行うためご協力くださいますようお願いいたします。

- 健康状態、その他必要なことを可能な限り正確にお話してください。
- 説明を受けてもよく理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 治療を受ける場合は、医療スタッフの指示に基づき療養してください。
- 病院のルールを守り、他の患者さんの迷惑にならないようご配慮ください。
- 教育病院として、医師、医学生、看護学生、医療専門職の学生、救急救命士などの臨床実習・研修教育を行っております。厳重な指導のもとに実施していますので、ご理解とご協力をお願いします。

## まちかど情報

### 氷見魚市場食堂

今回ご紹介するお店は、氷見漁港2階に併設されている「魚市場食堂」です。

氷見で水揚げされた鮮度抜群な魚料理を味わうことができます。

魚市場食堂の大人気メ

ニューは「氷見浜丼」。「氷見浜丼」は氷見漁港で水揚げされた時期にぴったりの旬の魚を頂くことができます。

実際に頂いたところ、多種類の魚が盛っており、どの魚もとても美味しかったです。氷見浜丼を注文する際は、ちよっこし盛(小盛)、やわやわ盛(並盛)、はんさ盛(大盛)の3つの盛り方から選ぶことができます。また、丼を注文すると土鍋の漁師汁がついてきました。身体も心も温かくなるので、寒い季節にもぴったりです。

また、海鮮丼の他にも、お刺身から鍋料理、揚げ物まで豊富なメニュー



が揃っているので、お好きな料理をみんなでシェアするのも良いかもしれません！ぜひ、氷見の旬の魚を堪能してみてください。満足できること間違いなしです！

## 表紙について

表紙は、写真が趣味だった祖父が撮影しました。

氷見市十二町瀧水郷公園では白鳥の他にも、初夏には紫陽花、8月にはオニバスを見ることができ、オニバスは国の天然記念物にも指定されているそうです。私も祖父のようにカメラを構えて、いろいろな景色を見つけに出かけたいです。

## 編集後記

家族団欒の賑わいから一転、激しい揺れと不安に襲われた元日でした。

ここ氷見市でも、1月9日現在でおおよそ66名の方が避難所生活を余儀なくされ、依然として断水が続いている地域もあります。当院でも断水時は患者さんにご不便をおかけしました。

私の外来には、地震後から不眠になったり、体調を崩す方が受診されるようになりました。地震による身体的被害が無くても、精神的な影響は本人が思うより深く受けていることが多いです。受診される方々は口を揃えて「先生忙しいがにこんな話してごめんね」と言われますが、そんなことは気にせず話をしてください。不安な思いは人に話すことで、少しずつ確実に小さくなっていくからです。

当院職員を含め、被災された皆様、今は食べられるだけ食べて、できるだけ体を休め、できるなら誰かに頼ってください。決して一人にならず、誰かと共に過ごし、自分を大切にしてください。我々も自分自身にできることを精一杯取り組んでまいります

かけし冬号編集委員 呼吸器内科 山田 真也

## ■広報誌「かけし氷見」の由来

広報誌が患者さんと病院、地域と病院をつなぐ「かけし」となることを願って命名されました。